

令和 6 年 度
挑み続ける「人財」育成事業
実 践 報 告 集

令和 7 年 3 月 徳島県教育委員会

挑み続ける「人財」育成事業について

A I、ビッグデータ、I o T等の先端技術が高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが劇的に変化すると言われるSociety 5.0時代の到来に向け、未来を生きる子供たちにとって、どのような能力が必要か、また、グローバル化の進展の中で、持続可能な社会を創造し先導するためにどのような人材が必要なのかについて、キャリア教育の視点からの検討が必要となっています。

本県では、「徳島教育大綱」の趣旨に基づき、「未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる『人財』の育成」の実現に向け、様々な取組を進めているところです。

本事業は、変化が激しく、将来の予測が困難なこれからの社会を生きる子どもたちに不確実性への対応力を育成するとともに、一人一人の社会的・職業的自立に向けた能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育の一環として、地域の方や企業、N P O法人等の団体など多様な主体と連携し、「かかわる力（人間関係形成・社会形成能力）」、「みつける力（自己理解・自己管理能力）」、「すすむ力（課題対応能力）」や「えがく力（キャリアプランニング能力）」を身に付けさせるための持続可能な地域社会の担い手「人財」育成について調査研究を行い、その成果等を広く県内外に普及することを目的として実施しました。

研究指定校

徳島県立城ノ内中等教育学校（前期課程）

徳島県立つるぎ高等学校

1 実践の目標

「とくしま創生」をキーワードに掲げ、自ら徳島県の課題や魅力を発見し、校内外の多様な他者と関わることを通して、徳島の未来を担う人財の育成を目指す。

2 実践の内容

（1）徳島創生プロジェクトの実施

①前期課程3年生の総合的な学習の時間において、地域経済分析システム「RESAS」を活用した「徳島創生プロジェクト」を実施した。

②3～4人のグループを編成し、「RESAS」のデータ等を活用して徳島県の課題を設定し、課題解決に向けた方策を考えた。情報共有はコラボレーションツール内で行い、発表ツールとしてプレゼンテーションソフトの共同編集機能を活用した。

（2）多様な他者と関わる機会の提供

①徳島県の地域振興に寄与している企業や個人に講演を依頼し、徳島県の課題や魅力についての理解を深めた。

講演会依頼先：徳島市、神山町、鳴門市、
株式会社 ReBlue COO 高畑拓弥 様

②夏期休業期間を活用し、設定した課題解決に関わる企業・自治体を訪問した。また、Web会議システムを活用し、全班がインタビューを実施した。インタビュー内容はA4のレポート用紙にまとめ、他班と情報共有を行った。

③7月に関西学院高等学校主催の「中高生探究の集い」に参加した。全国から探究活動に興味を持つ中高生が集まり、互いの研究について意見交換を行った。地域創生に取り組む他校の生徒との交流を通じて視野を広げることができた。また、12月には関西学院高等学校での発表会に参加し、これまでのプロジェクト成果を発表した。



3 実践の成果

①提案をスライドにまとめ、以下の3回のプレゼンテーションを実施した。

- 9月 中間発表会
- 10月 学校公開日の発表
- 2月 最終発表会

2月の最終発表会では、クラス内で発表を行い、クラス代表2チームを選出。その後、学年発表を実施した。審査員として、ReBlue 高畑様（Web 会議システム参加）、徳島県信用保証協会の里見様を迎え、厳正な審査を行った。里見様からは、スタートアップ企業の創業支援の観点から学校とは異なる視点の質問をいただき、生徒にとって貴重な学びの機会となった。

各発表ごとに質疑応答と評価を実施。評価はアンケートアプリを用いて行い、他班との比較分析を行った（図1）。この分析を通じて、他者からの評価を可視化し、改善点を見出すことができた。また、10月の発表評価の分析では、生徒自身が生データを加工し、分析を行うことができ、主体的に活動に励むことができた。

②優秀な作品は、3月に前期課程・後期課程合同で行われる校内課題研究発表会で発表を行う。また、外部のコンテストとして、地方創生★政策アイデアコンテストや中高生探究コンテストに全班（139名）が応募し、「中高生探究の集い」には校内予選を勝ち抜いたチームが参加した。

特に、地方創生★政策アイデアコンテストでは、徳島県予選を勝ち抜き、3チームが四国地区選考に出品することができた。

クラス	班	平均値	クラス順位
1組	1班	22	3
1組	2班	25.30769	1
1組	3班	21.65385	5
1組	4班	22.44	2
1組	5班	21.86207	4
1組	6班	21.25	7
1組	7班	19.48148	9
1組	8班	21.28	6
1組	9班	20.31034	8
2組	1班	23.54839	4
2組	2班	22	6
2組	3班	23.62069	3
2組	4班	21.31034	7
2組	5班	23.96552	2
2組	6班	24	1
2組	7班	22.2	5
2組	8班	20.96296	8
2組	9班	20.25806	9
3組	1班	22.10714	3
3組	2班	25.2	1
3組	3班	21.37037	4
3組	4班	19.875	8
3組	5班	20.75	6
3組	6班	24.56667	2
3組	7班	20.54839	7
3組	8班	21.32143	5
3組	9班	19.67857	9
4組	1班	26.76923	3
4組	2班	24.37037	5
4組	3班	21.4	9
4組	4班	25.07407	4
4組	5班	26.96552	1
4組	6班	23.51852	8
4組	7班	26.91724	2
4組	8班	23.82759	6
4組	9班	23.64516	7

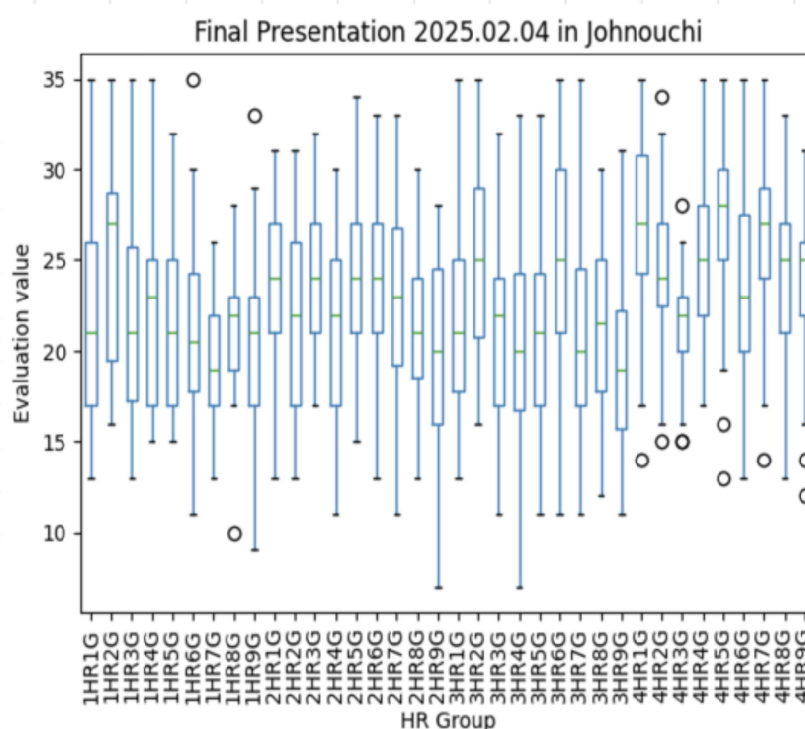


図1 最終発表会評価結果

1 実践の目標

本校は令和2年度から ICT ビジネス研究部が中心となり、JR 貞光駅で藍よしのがわトロッコ列車のおもてなし活動を行っている。そこでは、『つるぎ町やにし阿波の PR をしよう』と意見が出るが、生徒自身がにし阿波の強みに魅力を感じていないのが現実である。地域資源を知らなければ、半田そうめん等の地域の食文化も知らない。世界農業遺産のことも勉強したが、『世界農業遺産に選ばれたことで、私たちの生活にどう影響があるのか』といった意見もあった。「にし阿波」地域の活性化のためには、交流人口のみならず関係人口を増やすことが重要だと考えている。

2 実践の内容

【対象生徒】

- ・地域ビジネス科3年生「課題研究」「観光ビジネス」
- ・地域ビジネス科2年生「マーケティング」選択者
- ・部活動 ICT ビジネス研究部

(1)地域の魅力づくりに貢献している方から、直接生徒たちが話を伺ったり意見交換したりすることで、地域に対する理解や愛情を深める。

①美馬青年会議所 篠原さん (ICT ビジネス研究部)

課題「関係人口の増加」

地域の熱烈なファンを増やすとともに、地域に人を呼べる人を増やしたい。そのためには、地域の魅力が伝わらなくてはならない。

②三好市観光協会 太田さん (地域ビジネス科3年生) (ICT ビジネス研究部)

課題「地域を盛り上げている中心が60代から80代である」

地域の魅力を伝える後継者を増やさなければならない。

③合同会社 結び 代表社員 伊庭さん (地域ビジネス科3年生)

課題「つるぎ町の新たな魅力づくり」

『今、蘇る古代ヤマト【阿波】と世界の中心となる【剣山】』について

(2)私たち自身が関係人口となり、継続的に関わることで、地域の活性化に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

①美馬青年会議所さんと動画撮影と編集技術を学び、発信する。

6月に美馬青年会議所さんが主催する、地域の魅力にふれ地域愛を深め、情報を発信することで、関係人口の拡大につながる取組を進めていくことを目指す『2024年度地域 LOVE 発信セミナー』に参加。8月には、一緒に貞光二層うだつの町並みの動画撮影をし、ICT ビジネス研究部の SNS にアップした。

②「にし阿波」の魅力を知る、伝える。

(地域ビジネス科3年生、ICT ビジネス研究部)

つるぎ町観光案内人石井さん、兼西さんとともにつるぎ町を回った。知らなかった魅力を発見し、SNS で発信した。

③つるぎ町産業経済課、磯貝農園さんと交流し、



世界農業遺産『にし阿波の傾斜地農耕システム』について学ぶ。

(地域ビジネス科2年生「マーケティング」選択者)

(3) 実践的・体験的な活動を通して、地域の動向や課題を主体的に捉え、商業で学んだ見方・考え方を生かした行動ができる。

① つるぎ町産業経済課、西岡田さんのご協力のもと、傾斜地で土上げ体験をさせていただく。(地域ビジネス科2年生「マーケティング」選択者)



(4) この活動で得たことを、JR貞光駅でのおもてなし活動やトロッコ列車の車内アナウンス等で、自分の言葉で「にし阿波」のPRができる生徒を育てる。

地域ビジネス科2年生は2チームに分かれ、『にし阿波の傾斜地農耕システム』についてPRすることにした。販売する商品の試食会もおこない、何度も話し合いを行った。

学び得たことを自分たちの言葉でチラシにまとめ、磯貝農園さんや観光案内人の石井さんと一緒に「にし阿波」をPRすることで、ともに地域の価値を高める活動ができた。今後は農耕システムにおける経営についても学ぶ予定である。

11月はトロッコ列車おもてなし月間【貞光駅】

11月10日 さとめぐみの風
地域ビジネス科2年生 Aチーム

11月16日 さとめぐみの風
ICTビジネス研究部

11月24日 さとめぐみの風
地域ビジネス科2年生 Bチーム

さとめぐみの風・・・下り便

地域を知る！【地域ビジネス科2年生】

にし阿波の傾斜地農耕システムについて
にし阿波の傾斜地農耕システムについて
にし阿波の傾斜地農耕システムについて

11月3日配布 11月10日配布 11月16日配布

自分の言葉で地域の魅力を伝える！！

地域の方との協働！【地域ビジネス科2年生】

磯貝さん・石井さん（観光案内人）と一緒におもてなし

ともに地域の価値を高める活動！！

地域ビジネス科3年生は、JR 四国相談役の半井様から、観光列車が地域の活性化に大きな役割を果たしていることを学んだ。そこで自分たちも「期待を超える感動」を提供すべく、沿線ガイドに挑戦した。それぞれのチームでガイドもおもてなしの内容も考え、自分たちの言葉や表現で伝えるべく、工夫を凝らした。トラブルがありながらも、それぞれが機転を効かし、見事ガイドを務めた。お客様からは、「これからも続けて欲しい」との声を多くいただいた。

お客様の期待を超えるおもてなし！【地域ビジネス科3年生】

トロッコ車内で沿線ガイド

11月16日
地域ビジネス科3年生 Tチーム

11月23日
地域ビジネス科3年生 Iチーム

11月30日
地域ビジネス科3年生 Bチーム

チームに分かれ、それぞれのチームでガイドの内容・おもてなしの内容を考える！！

一期一会のおもてなし

自分たちが学んだこと・得たことを自分たちの言葉で伝える

東みよし町役場情報収集

住んでいる私だから知っていること

調べる！まとめる！！

11/23 配布チラシ

自分の得意分野

3 実践の成果

今回の活動で得た一番の成果は、生徒たちがいつのまにか関係人口となり、主体的に地域のことを考え、地域の方と協働した活動を展開していたことである。辺境の地「にし阿波」だからこそ、伝統が残っており、それらを絶やさないために、生徒たちの世代や次世代に伝えることが、大切だと感じた生徒も多い。またこの活動は、「エシカル甲子園 2024」で特別賞にあたる「日本エシカル推進協議会会長賞」をいただいた。そこでアドバイスとして、「続けていくこと」が重要であるとあった。この活動を単年で終わらすのではなく、今後も「続けていく」ことが、これからの課題である。